

わくわく学びの街・下関

下関市教育委員会 生涯学習課
社会教育主事だより
令和6年7月5日



地域協育ネットコーディネーター・家庭教育アドバイザー養成講座

山口県教育委員会では、地域連携教育・家庭教育を進めるために、コーディネーターとアドバイザーの育成講座を行っています。年7回講座があり、各必修講座4回と選択講座1回を履修して、修了します。対象は、学校地域協同活動推進員や

学校関係者、行政職員、社会教育関係者です。今回は、6月29日（土）に行われた第2回講座について紹介します。

講演「わがまちの地域連携教育」

【講演】

今回は、子ども時代に地域連携教育を受けて育ったお二人の方が講演をされました。1人目は、島根県松江市から高校生・大学生がつくるNPO法人 KEYS 事務局長の藤原睦己氏（大学3年生）です。島根県のふるさと教育推進事業の取り組みで、小学生の時に、地域のヒト・モノ・コトについて学習し、中学生の時に、夏祭りや文化祭でボランティアとして自ら



地域と関わって、高校生の時に若者による主体的な地域貢献活動を行うNPO法人を設立されました。NPOでは、公民館で自習スペースを開いたり、中学生・高校生を対象にしたリーダー育成研修会と実践の場としてのフェスタを開催したりしています。2人目は、地域連携が盛んな光市浅江小・中出身の一般社団法人 motibase 代表理事 和泉宏氏です。「ふるさとが好きのその先へ」「子どもたちが参画する場が、学校教育・社会教育にあるか。」「学校と地域が『知る』『求める』のような当たり前のことが意外とできていない。両者が『知る』『求める』ことによって、連携が生まれる。」「ビジョンを共有する時に、どんな子供の姿や声を目指すのかを共有することで具体化できる。」などと語られました。

【対談】

「私は、地域を出た時に、ふるさとを思った。だから当たり前だが、子どもたちがいる時が勝負。いかにふるさとに関わり続けたいと思ってもらえるかが重要。地域で子どもたちが、自分が動くことによって自分なりの試行錯誤ができる場があるか、自分ができることや地域の期待を実感できるかが重要。キーワードは『実感！』」

【Q&A】

Q：大人がつい口を出してしまうが、子どもたちと関わる時に気をつけていることは何か？

A：子どもたちのこだわりをしっかりと聞いて、大事にしている。

Q：保護者とのつながりをつくるのが難しいと感じているが、どうしたらよいか？

A：大人が楽しんだら、子どもも楽しむ。子どもが楽しんでいたら、保護者も伝わる。

Q：学校・地域・保護者が仲良くするためには、どうしたらよいか？

A：終わった後に、互いに労い、成功体験を共有し、次のビジョンを語り合う場が大切。